

# チャリティーゴルフコンペ 令和3年11月25日



一般社団法人九州動物福祉協会  
理事長 薬真寺 偉臣

恒例となりますチャリティーゴルフコンペを今年度も伊都ゴルフクラブにて開催いたしました。

今回は例年よりも多く38組145名にご参加をいただき好天にも恵まれて盛大に開催することができました。

チャリティーにご賛同頂いた参加者をはじめ、協賛頂いた企業の皆様への感謝とともに、これからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 九州災害時動物救援センター施設概要

管理棟（診療室、事務室、ミーティングルーム、宿泊所）  
大犬舎×1棟、中犬舎×1棟、コテージ型犬猫舎×14棟、大型ドッグラン×3区画、中型ドッグラン×2区画



### 九州災害時動物救援センター

所在地：大分県玖珠郡九重町湯坪1625  
TEL：0973-79-2741

## 寄付のご報告

### ①「九州災害時動物救援センター」への一般寄付

平成28年度	6,658,302
平成29年度	6,203,194
平成30年度	2,619,137
令和元年度	1,349,331
令和2年度	306,981
令和3年度	2,358,381
累計額	¥ 19,495,326

### ② 一般社団法人九州動物福祉協会 賛助会員

(R4,3月末現在)

	個人	法人	合計
会員数	26	70	96
入会口数	121	216	337
入金額	121,000	2,160,000	¥2,281,000

皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

# このえ 九重の風



No. 7

一般社団法人九州動物福祉協会  
福岡県福岡市中央区渡辺通 5-2-25 7F

## 大家財務副大臣よりメッセージが届きました



参議院議員  
大家 敏志

参議院議員の大家敏志です。私は福岡県議会から平成22年に国政に転じ、現在、参議院議員2期、昨年10月より岸田内閣において財務副大臣を務めています。

県議会議員当時より、私を国政に送ってくださった藏内勇夫先生から、今後起こりう

る大規模災害を見据えた被災動物救援施設の必要性について、常々ご指導をいただいております。

東日本大震災を契機に、その計画はより具体的なものとなり、日本初の常設ペットシェルターの整備が進む中、熊本地震が発災。九州動物福祉協会のご英断で施設整備を大幅に前倒し、被災ペットの受け入れを執行されたことは、地元自治体はもとより、心身に疲労する中、生活再建に奔走する飼い主の皆様にとって、どれほど心強いものであったかと推察されます。また、平成29年の九州北部豪雨災害や、その後頻発する災害においても、発災直後の迅速な救援活動によって、多くの被災ペットを救っていただきました。

九州動物福祉協会 薬真寺偉臣理事長、草場治雄副理事長、藏内勇夫理事をはじめ、関係各位の先進的な取り組みによって、九州広域の動物救援と災害支援に多大なご貢献をいただいていることに、改めて敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との闘いも2年が過ぎ、慎重さを堅持しながら、経済社会活動を回復していく段階となりました。私たちは前に進んでいかなければなりません。動物由来感染症といわれる新型コロナウイルス

の究明と予防、今後の長期的な対策には、医学と獣医学の横断的な連携が求められます。今こそ、人の健康、動物の健康及び環境の健全性はひとつという「ワンヘルズ理念」を実践体制に移行していく時です。

2月16日には、藏内勇夫先生とともに首相官邸を訪問し、岸田文雄総理に「ワンヘルズアプローチ」に基づく感染症対策の推進のほか、福岡県への「アジア新興・人獣共通感染症センター」の誘致、「動物保健衛生所」への支援について要望いたしました。岸田総理は、福岡県が全国に先駆け制定した「ワンヘルズ推進基本条例」をはじめとする取り組みについて評価され、政府としても参考とし、「ワンヘルズアプローチ」に基づく感染症対策に前向きに取り組んでいくと表明されました。

国の内外で、大きな出来事が続いています。激甚化、頻発化する災害、ウィズコロナ・アフターコロナの社会の構築に、九州動物福祉協会の取り組みが発揮されるものと期待されます。

折しも本年、藏内勇夫先生におかれては、アジア獣医師会連合の会長にご就任されます。藏内先生の牽引力と実行力で、ワンヘルズの理念を一層普及いただき、人と動物の共生する、よりよい社会の実現に、更に邁進頂きたいと願っております。

岸田内閣はこの危機に打ち克ち、前進していくため、国民の皆様にとってベストな政策を、前例にこだわらずに機動的に講じていく決意です。私もその一員として、国民の皆様への命と暮らしを守るため力を尽くしてまいります。

結びに、九州動物福祉協会のますますのご発展を祈念し、九重の風に寄せるメッセージとさせていただきます。

# 福岡県“One Health” 国際フォーラム2022

令和4年2月12～13日、福岡県“One Health”国際フォーラム実行委員会(大会本部長・服部福岡県知事)の主催のもと「福岡県“One Health”国際フォーラム2022」が開催されました。

当協会からは、大会副本部長として草場副会長((公社)福岡県獣医師会会長)、来賓として蔵内理事((公社)日本獣医師会会長)、野原監事(福岡県議会議員)が参加しました。

国内外よりワンヘルス関連の専門家や研究者を招き、一堂に会しての開催が予定されていましたが、残念ながら新型コロナ・オミクロン株の感染拡大のため、一般来場を制限し、オンライン併用形式となったものの、一日目は開会式に続く2つの



服部知事の大会本部長挨拶

基調講演と県民講座において、二日目はワンヘルスの専門的課題を議題とする4つの分科会において、大変有意義な報告や議論が行われました。

開会式では、服部誠太郎福岡県知事が主催者代表挨拶において、県政を進めるにあたっての3つのチャレンジの一つにワンヘルスを掲げ、みやま市に新たに整

備する県の保健環境研究所と、家畜だけでなく愛玩動物や野生動物の保健行政を一体的に取り扱う動物保健衛生所、この2つの機関を連携させる「ワンヘルスセンター」の整備を進めること等、県のワンヘルス実践への取り組みを紹介され、ワンヘルスの概念を「行動・実践」の段階に進めるとした福岡宣言から僅か数年でその具現化を推し進めるリーダーとしての意気込みが伝わってきました。

また、当協会理事の蔵内勇夫日本獣医師会会長は、来賓挨拶で、福岡県の新型コロナ対策における感染拡大の防止と地域経済を回転させるという二律背反する課題の両立やワンヘルスの推進に、先頭を走って取り組む服部知事の手腕を「まさしく海図のない海を航海するがごとく」という表現を用いて高く評価されました。

すでに2年を超えて世界中を混乱に陥れている新型コロナウイルス感染症が、皮肉にも大きな教訓となりワンヘルスの重要性が認識されつつあります。我々人類が過去の経験から学ばなければならない



蔵内理事が日本獣医師会会長として祝辞

のは、こうした脅威を前にして、いたづらに怖れることなく英知を結集し、その克服とともに新たな脅威への備えを進めることではないでしょうか。そのような備えとしてワンヘルスの概念に基づく実践の一步となるこの国際フォーラムの意義は大きく、福岡県がこれを継続していくことを切に願います。

閉会の挨拶には、大会副委員長を務める福岡県獣医師会の草場会長(九州動物福祉協会副会長)より、21世紀はワンヘルスの時代でありこの国際フォーラムがその推進に寄与することを強く願う。と力強く宣言されました。



福岡県獣医師会の草場会長

尚、フォーラムの様子はオンデマンド配信されていますので下記のQRコードよりどなたでも閲覧できます。



## 県民講座 「ワンヘルスにおける森林医学 ～健康は森から～」

講師:李 卿 氏(日本医科大学 臨床教授)  
座長:今村 和彦 氏(福岡県獣医師会 専務理事)

ワンヘルスの理解を深めるため行われた県民講座では、講師に日本医科大学付属病院リハビリテーション科の李教授を迎え、森林浴が人間の健康に与える影響についての話を中心に、とても身近なワンヘルス実践のアイデアが随所に語られました。

また、国内外における学会の実績や著書の紹介、米NBCテレビで特集された映像などを交え、李氏の軽快なトークはユーモアたっぷりでありわかりやすく、視聴者がワンヘルスに興味を持つきっかけとなる内容でした。

以下に講演内容のポイントをご紹介します。

・氏の森林浴研究は、若い頃に訪れた屋久島の森林を散策した際、樹々が人を癒すパワーを感じた経験に原点

- がある。
- ・森林浴の効果は精神的な指標の上昇に加え、科学的には血中セロトニン濃度の上昇などの効果が明らかになっている。
- ・高齢者や基礎疾患を持つ人は、免疫力の低下により新型コロナ感染症などの重症化リスクを負う。森林浴は免疫機能の向上が期待できることから感染症対策にも効果を発揮する。
- ・氏の研究は、森を守り健康な人と動物を守る、まさにワンヘルスの取り組みによって人と森の関係を構築していかなければならないことを示している。



## 基調講演① 「ワンヘルスと、人と動物の絆—COVIDの影響」

講師:レベッカ・ジョンソン 氏(ミズーリ大学名誉教授)  
座長:越村 義雄 氏  
(一般社団法人 人とペットの幸せ創造協会 会長)

講師のレベッカ・ジョンソン氏は、米国ミズーリ州にある「タイガープレイス」の中心的存在です。「タイガープレイス」とは、ペットと高齢者が生活をともにし、伴侶動物とのふれあいがもたらす人間の心身への影響や効果を、実践により研究する施設です。レベッカ氏はその設立から運営、研究までの重要な役割を担い、その功績は世界的にも注目されています。

今回の講演は、新型コロナウイルスの世界規模でのパンデミックによって変化せざるを得なくなったライフスタイルの中で、伴侶動物がいかにして人々の心を癒し、ニューノーマルと呼ばれる新たな社会に向かうのかといったテーマでお話しいただきました。

以下に講演内容のポイントをご紹介します。

- ・アフターコロナの生活において、人の交流が減り、孤独の問題が顕著になりつつあるなかで、コンパニオンアニマルつまり愛玩動物・ペットが果たす役割が重要視されるだろう。

- ・強い都市封鎖(ロックダウン)を実行した英国ではペットを飼い始めたケースが増えた。規制をそれほど強めなかった米国ではペットの飼育数はあまり増えていない。
- ・ワンヘルスの概念を実現するためには、医師、獣医師、環境研究者はもちろん、さまざまな分野の専門家や政治行政分野、教育分野、産業分野など広範の理解が重要である。
- ・氏が中心となって設立したタイガープレイスはリタイアした人と動物が触れ合う施設であり、人間の生き甲斐(IKIGAI)を感じることを重要視している。利用者はペットとの関係を通じて日々の生き甲斐を感じている。
- ・氏は大阪市にあるペピイ動物看護学校とも交流があり、その取り組みを評価し「ペピイハッピープレイス」と呼んでいる。



## 基調講演② 「あらゆるものはどこからかやってくる —野生動物、生態系、人間の病気—」

講師:デビット・クアメン 氏(作家・ジャーナリスト)

ニューヨークタイムズをはじめ多くのメディアで記事を執筆し、ナショナルジオグラフィック誌の寄稿記者を務めるデビット・クアメン氏は、エボラ出血熱やSARSなどの致死率の高いウイルスが、どのようにして人間以外の生物から人間に乗り移ってくるのかをジャーナリストの立場で追跡し、いくつかの著書を発表。特に代表作ともいえる「Spillover(スピルオーバー)」は世界中で高い評価を受け、数々の賞を獲得しました。

本講演においては、自然界に存在するウイルスが人間に感染するまでの経路に内在する現代社会の大きな課題を明らかにすることで、ワンヘルスの重要性を訴えられました。

以下に講演内容のポイントをご紹介します。

- ・インフルエンザ、コロナウイルスはRNA型の遺伝子をもつウイルスである。遺伝子配列が螺旋状のDNAに比べRNAはその配列が一行のため不安定で変異しやすく、また、自己増殖のスピードが早いいためパンデミックを引き起こしやすい。

- ・ウイルスにとってヒト-ヒト感染を実現し、ヒトを宿主にすることは最大の成功である。(80億近い人口と接触の多い生態)
- ・野生動物からヒトへの感染経路は、家畜等を介するケースと、食用取引を起点とするケースが多くみられる。
- ・スマートフォンに欠かせないコルタンという鉱物はコンゴなど限られた地域で採掘され、この採掘環境は大変厳しいものである。そして労働者は野生動物を食料としそこで人獣共通感染症が発生する。つまり先進技術の恩恵にあずかる我々の生活は発展途上国における感染症の発生と無関係ではないということを認識しなければならない。
- ・感染症対策においては良き政治が必要であり、国民はそれを選ぶ良き有権者である必要がある。科学の視点と批判的思考が重要であり、その実現は教育によるものである。

